



“ここ20年の間で1本だけ好きな映画を選ぶとすれば、それは間違いなく『デカログ』である。”

スタンリー・キューブリック / 映画監督

“1本1本が素晴らしく、10本通して見ると一つの作品としてさらに素晴らしい。私もいつかあのような方法で映画を撮りたい。”

侯孝賢 (ホウ・シャオシェン) / 映画監督

“彼の作品はどれも好きだが、中でも『デカログ』は特別だ。”

エドワード・ヤン / 映画監督



クシシュトフ・キェシロフスキ 監督・脚本

KRZYSZTOF KIESLOWSKI
1941 - 2016

1941年、ポーランド・ワルシャワ生まれ。1967年に演出家を目指し国立演劇専門学校に入学するが映画を志すようになる。その後、名門ツェツェ夫大学に入学。1976年『恋詩』で長編デビューを飾る。第2作『アマチュア』でモスクワ国際映画祭グランプリを受賞した。1988年からTVシリーズ『デカログ』を制作。同時に第5話と第6話を劇場公開用に編集した『殺人に関する短いフィルム』(愛)に関する短いフィルムを発表しカンヌ国際映画祭審査員を受賞するなど絶賛される。1991年に『ふたりのペロニカ』を発表しカンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞を受賞。1993年から『トリコロール三部作』を制作し、『トリコロール・青の愛』はヴェネチア国際映画祭金獅子賞を受賞した。翌1994年『白の愛』はベルリン国際映画祭監督賞を受賞。三部作の最後となる『赤の愛』はカンヌ国際映画祭に出品された。『トリコロール三部作』完成後、監督引退を宣言するが、後に産婦、ダンナの『神曲』をモチーフにした『地獄篇・地上篇・天上篇』三部作に振り向きながら、1996年に心臓発作により死去。54歳没。遺稿の『天上篇』は2002年にトム・チクヴァにより『ヘブン』として、『地獄篇』は2005年にダニス・タンヴィッチ監督により『美しき運命の傷痕』として映画化された。

デカログ 特別上映 9/18(土)⇒30(木)

キェシロフスキ監督、伝説の十編が甦る！

9/18(土)⇒24(金) 上映時間は夕方から夜にかけての時間を予定。9/14(火)に決まります。

9/18(土)⇒21(火)	ある運命に関する物語	ある愛に関する物語	ある殺人に関する物語
9/22(水)⇒24(金)	ある選択に関する物語	あるクリスマス・イブに関する物語	ある父と娘に関する物語

9/25(土)⇒30(木) 上映時間は夕方から夜にかけての時間を予定。9/14(火)に決まります。

9/25(土)⇒27(月)	ある告白に関する物語	ある過去に関する物語
9/28(火)⇒30(木)	ある孤独に関する物語	ある希望に関する物語

- 当日料金(各プログラム)一律1300円
KINO会員証ご提示で1100円
- ★5プログラム券5000円劇場にて発売！

※特別上映のため招待券・VIP券はお使いいただけません。
※9/14(火)の「ある運命に関する物語」と石川監督講演は別料金のため5プログラム券はお使いいただけません。

デカログ公開記念

「ある運命に関する物語」上映 & 石川慶監督講演
「キェシロフスキ映画の主題と魅力」

9/18(土)夕方の時間帯で調整中
(正式な時間は9/14(火)に決まります。)

- 入場整理券付きチケット1800円
KINO会員証ご提示で1300円
劇場窓口にて9/4(土)より発売！

シアターキノ

都小6丁目 南3条グランドビル2F
011-231-9355 theaterkino.net



石川慶監督 プロフィール

1977年生まれ、愛知県出身。ポーランド国立映画大学で演出を学ぶ。2017年に公開した『善行録』では、ベネチア国際映画祭オゾルンティ・コンペティション部門に選出されたほか、新藤兼人賞、ヨコハマ映画祭、日本映画プロフェッショナル大賞では新人監督賞も受賞。『黒田除命祭ベストセラー』を実写映画化した青春ドラマ『青春と運命』(19)では、毎日映画コンクール日本映画大賞、日本アカシヤ賞優秀作品賞などを受賞。2021年にはケン・ワグネルの『Arc アーク』が公開された。



「礼儀は、以前にも短編映画祭に何度も出品していた過去があり、とても思い出深いんです。『デカログ』は自分にとっても映画作りの教科書のように長年見続けてきた作品ですので、思い出深いので、思い出深い作品のお話ができることを楽しみにしています」